

梅花觀世音菩薩

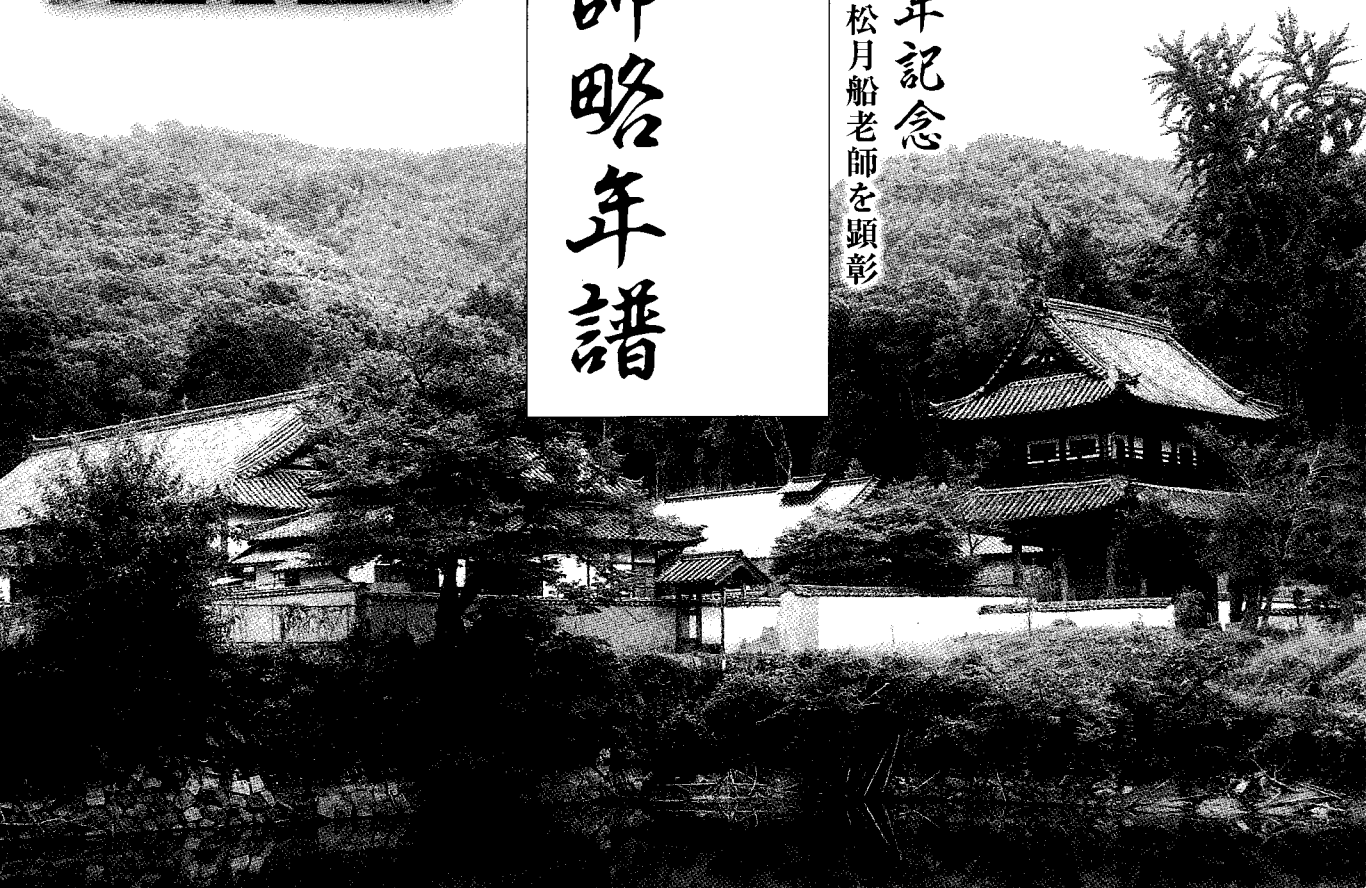


曹洞宗梅花流創立六十周年記念

数々の宗門詠讚歌の名曲を作詞された赤松月船老師を顕彰

舟木山洞松寺 独住二十四世
曹洞宗梅花流詠讚歌名誉師範

赤松月船老師略年譜



年号	西暦	(年齢)	事項
明治三〇	一八九七	(一歳)	三月二十二日 父藤井健次 母長 浅口郡鴨方村で出生。 鴨山(二六三M)の東麓 鴨神社、長川寺、正伝寺、浄光寺等あり。鴨方藩の陣屋跡 西山拙斎(儒者)の欽塾 田中索我の史跡あり 祖父藻七郎は味噌 醪の醸造業を営み、屋号「すみや」、祖父は「三省」と号し、風雅を愛し文人墨客と交流。
〃 三九	一九〇六	(九歳)	三月 長川寺二十七世水谷全之のもと沙弥となり、その後二十九世英克成の弟子となり「彦雄」となる。
〃 四一	一九〇八	(一一歳)	十一月 井原市善福寺三十一世赤松佛海の養子となり、得度。翌々年三月「慧海月船」となる。
大正 三	一九一四	(一七歳)	瑞応寺専門僧堂(新居浜市)に安居・高田道見の薫陶をうける。中西悟堂(野鳥研究)と修行。
〃 五	一九一六	(一九歳)	四月 洞松寺二十二世三村大轉のもと立身、九月 洞松寺にて赤松佛海に嗣法。
〃 七	一九一八	(二一歳)	十月 大本山永平寺安居修行。
〃 八	一九一九	(二二歳)	三月 大本山総持寺安居、五月 上京、仏教館の新聞編集・日本大学宗教科に入学。
〃 九	一九二〇	(二三歳)	四月 東洋大学国漢科に転学、文学仲間「静雨会」に入会(横光利一、片岡良一等と親交)さらに新感覺派の作家たち(川端康成・片岡鉄兵・今東光等)と交流。
〃 一二	一九二三	(二六歳)	仏教館を退き、生田長江の門下生となる(大正期思想文学の代表、文学志望者が集結、住井すえ・生田春月・高群逸枝)同人誌「月光」の中で詩作・文人と交流。
〃 一三	一九二四	(二七歳)	大藤治郎主宰の詩誌「詩聖」の選者となる。
〃 一四	一九二五	(二八歳)	白川イクと結婚。
昭和 元	一九二六	(二九歳)	第一詩集『秋冷』(抒情詩社)を出版、木山捷平を援助(詩人・小説家へ)。
〃 五	一九三〇	(三三歳)	『文芸時代』に(二月号)小説『永平寺』を寄稿す。
〃 九	一九三四	(三七歳)	第二詩集『花粉の日』(交蘭社)を出版、『禪十二講』(資文堂)を出版。
〃 一一	一九三六	(三九歳)	大法輪閣に入社し、『大法輪』の編集担当。 二月 岡山県川上郡平川村観音寺二十一世住職に就任。

〃 一二	一九三七	(四〇歳)	岡山県川上郡平川村助役に就任。
〃 一六	一九四一	(四四歳)	岡山県川上郡平川村村長に就任(要職森林組合長・在郷軍人会長・大政翼賛会長)。
〃 二二	一九四七	(五〇歳)	九月 第三詩集『明るきセレナード』(合同新聞社)を出版。
〃 二四	一九四九	(五二歳)	一等教師に補任 藤原審爾(小説家)と好誼。
〃 二五	一九五〇	(五三歳)	曹洞宗特派布教師(昭和三十二年まで)。
〃 二六	一九五一	(五四歳)	正教師に補任、梅花流詠讚歌研究委員、同専門委員となる。
〃 二七	一九五二	(五五歳)	六月 緋恩衣特許。
〃 三一	一九五六	(五九歳)	三月 翌年九月まで十八ヶ月『仏教童話全集』全十二巻(大法輪閣)九編の童話執筆、発刊の企画(武者小路実篤・尾崎士郎・草野心平・坪田譲治・中河与一等執筆)。
〃 三三	一九五八	(六一歳)	十二月 岡山県川上郡備中町教育委員長同公民館長となる。
〃 三七	一九六二	(六五歳)	一月 岡山県小田郡矢掛町横谷洞松寺独住二十四世住職。
〃 三九	一九六四	(六七歳)	井原市善福寺兼務住職に就任。
〃 四〇	一九六五	(六八歳)	十一月 権大教師補任。
〃 四二	一九六七	(七〇歳)	四月 黄恩衣特許。
〃 四四	一九六九	(七十二歳)	十一月 『禪の四十二話』(教育新潮社)を出版 四月 梅花流詠讚歌名誉師範に補任。
〃 四五	一九七〇	(七三歳)	一月 大教師に補任 大本山総持寺顧問、二月 赤紫恩衣特許。
〃 四八	一九七三	(七六歳)	妻イク没。
〃 五七	一九八二	(八五歳)	『緑蔭に坐わる』美作禪のつどい(美作曹洞宗青年会)出版。
〃 五八	一九八三	(八六歳)	『赤松月船自撰詠讚歌集』(仏教情報センター)を出版。
〃 六〇	一九八五	(八八歳)	『赤松月船全詩集』(水田書房)を出版。
平成 九	一九九七	(一〇〇歳)	権大教正補任。 八月五日 遷化。

◎詠讚歌作詞関係

昭和二六 一九五一(五四歳)

七月 曹洞宗詠讚歌研究委員、専門委員となり①各流の公聴②歌詞③各流の運営④流派名など研究、基盤構築に尽力。
 十月 歌詞委員会委員となり「高祖承陽大師道元禪師御詠歌」他五曲を提出。
 十二月 歌詞、作曲を承認・決定。流派名を「梅花流」と決定。

〳二七 一九五二(五五歳)

一月

必携 番号	詠 題	作詞者	作曲者	発表年月日	摘 要	作詞順 番号
3	高祖承陽大師道元禪師御詠歌 (紫雲替節)	赤松月船	密巖流木揚	S 27・1・22	第一回梅花流講習会	1
4	太祖常濟大師瑩山禪師御詠歌 (紫雲替節)	赤松月船	〃	〃	〃	2
10	大本山永平寺第二番御詠歌 (溪声替節)	赤松月船	密巖流大和	〃	〃	3
11	大本山總持寺第一番御詠歌 (溪声替節)	赤松月船	〃	〃	〃	4
19	高祖承陽大師道元禪師讚仰御詠歌 (法灯)	赤松月船	密巖流光明	〃	〃	5
21	高祖承陽大師道元禪師讚仰御詠歌	赤松月船	密巖流旧いろは 和讚	〃	〃	6

四月 大本山永平寺にて道元禪師七百回大遠忌記念事業として「梅花流詠讚歌」が奉詠発足。

〳三三 一九五八(六一歳)

二月

33	觀世菩薩讚仰御和讚 ↓削除	赤松月船	権藤円立	S 33・2・10	詠讚歌講習会 (總持寺)	7
35	戦没精霊(英霊) 供養御和讚 ↓平成三年奉詠禁止	赤松月船	安田博道	〃	〃	8

〳三四 一九五九(六一歳)

四月

38	大聖釈迦如来涅槃御和讚	赤松月船	金野亮範	S 34・4・29	〃	9
----	-------------	------	------	-----------	---	---

〳三五 一九六〇(六三歳)

四月

40	追善供養御和讚	赤松月船	安田博道	S 35・4・17	昭和35年大会 (總持寺)	10
----	---------	------	------	-----------	------------------	----

〃 四八 一九七三(七六歳)	〃 四八 一九七三(七六歳)	〃 四七 一九七二(七五歳)	〃 四六 一九七一(七四歳)	〃 四五 一九七〇(七三歳)	〃 四三 一九六八(七一歳)	〃 四二 一九六七(七〇歳)	〃 四〇 一九六五(六八歳)	〃 三六 一九六一(六四歳)	
四月	四月	四月	五月	四月	六月	四月	四月	四月	
60 光 ↓太祖常濟大師瑩山禪師影向御詠歌(伝) 御詠歌(伝光)	59 太祖常濟大師瑩山禪師影向御和讃	58 追弔御和讃	57 御授戒御和讃	56 良寛さま	54 觀世音菩薩第二番御詠歌(浄光)	53 結婚讃歌	48 地藏菩薩御詠歌(慈念)	47 地藏菩薩御和讃	42 追善供養御詠歌(妙鐘)
赤松月船	赤松月船	赤松月船	赤松月船	赤松月船	赤松月船	赤松月船	赤松月船	赤松月船	赤松月船
細川潤一	細川潤一	細川潤一	安田博道	細川潤一	細川潤一	藤井制心	永田正道	大山仙遊	安田博道
〃	S 48・4・2	S 47・4・10	S 46・5・20	S 45・4・10	〃	S 43・6・29	〃	S 40・4・17	S 36・4・4
	昭和48年大会(福岡)	20周年記念大会(武道館)	昭和46年大会(永平寺)	昭和45年大会(静岡)		明治百年記北海道開道百年記念大会(中央寺)		總持寺二祖大遠忌大会(總持寺)	10周年記念大会(文京公会堂)
20	19	18	17	16	15	14	13	12	11
						梅花流詠歌名誉師範に補任			創立十周年記念作詞

〃 四九	一九七四(七七歳)	五月	61	達磨大師御和讃	赤松月船	大山仙遊	S 49・5・10	瑩山禪師650回大遠忌 大会(總持寺)	21
〃 四九	一九七四(七七歳)	五月	62	達磨大師御詠歌(廓然)	赤松月船	安田博道	S 49・5・10		22
〃 五〇	一九七五(七八歳)	五月	63	同行御和讃	赤松月船	安田博道	S 50・5・28	昭和50年大会(宮城)	23
〃 五一	一九七六(七九歳)	五月	65	誓願御和讃	赤松月船	永田正道	S 51・5・22	昭和51年大会(岐阜)	24
〃 五二	一九七七(八〇歳)	五月	66	慶祝御和讃	赤松月船	細川潤一	S 52・5・25	25周年記念大会 (武道館)	25
〃 五三	一九七四(八一歳)	六月	67	大本山永平寺二祖懷辨禪師讚仰御和讃	赤松月船	安田博道	S 53・6・10	昭和53年大会(札幌)	26
			68	大本山永平寺二祖懷辨禪師讚仰御詠歌(永光)	赤松月船	安田博道	〃		27
			69	水子地藏御和讃 ↓平成三年奉詠禁止	赤松月船	遠藤 実	〃		28
〃 五四	一九七九(八二歳)	五月	70	觀世音菩薩御和讃	赤松月船	遠藤 実	S 54・5・23	昭和54年大会(三重)	29
〃 五五	一九八〇(八三歳)	五月	71	開山忌御和讃	赤松月船	安田博道	S 55・5・27	昭和55年大会(福井)	30
〃 五六	一九八一(八四歳)	五月	72	戰災精霊供養御和讃	赤松月船	細川潤一	S 56・5・21	昭和56年大会(広島)	31
〃 五七	一九八二(八五歳)	五月	73	開山忌御詠歌(真水↓真清水)	赤松月船	安田博道	S 57・5・25	30周年記念大会 (武道館)	32
				創立三十周年記念作詞					

〃五八	一九八三(八六歳)	五月	74	水子地藏御詠歌(能化) ↓平成三年奉詠禁止	赤松月船	細川潤一	S 58・5・25	昭和58年大会(郡山)	33
〃六二	一九八七(九〇歳)	五月	75	報恩供養御和讃	赤松月船	安田博道	S 62・5・26	35周年記念大会 (武道館)	34
〃二三	二〇〇一	三月	76	報恩供養御詠歌(澄心)	赤松月船	安田博道	〃		35

『梅花流指導必携』(平成十七年)では総計八十六曲の中、赤松月船老師作詞は総計三十五曲となる。

赤松月船老師顕彰・梅花観音建立・歌碑・「作詞の聖地」石碑建立。

◎各地寺院作詞の詠讚歌

- ①大本山永平寺東京別院観音讚歌(東京都港区)
同十一面観世音菩薩御詠歌
- ②ハワイ梅花講二十周年慶祝讚歌
ハワイ開教七十周年奉讚御和讃
- ③ハワイ白峰山大正寺御詠歌
- ④沖繩英霊追善御和讃
- ⑤三重県梅花百観音霊場巡礼御詠歌(昭和四十八年)
- ⑥龍沢山善宝寺御和讃・御詠歌(山形県鶴岡市)
- ⑦笠岡山威徳寺水子地藏御和讃・御詠歌
- ⑧宝生山海門寺糸武地藏御和讃・御詠歌(大分県別府市)
- ⑨松隆山宝樹寺位牌堂御和讃・御詠歌(岡山県鏡野町)
- ⑩高峰山天寧寺御詠歌(東京都青梅市)
- ⑪白狐山光星寺子育観音御詠歌
- ⑫金剛山大長寺福德十三佛御和讃・御詠歌
中陰供養御詠歌 母を憶う詩「母」
(神奈川県足柄上郡開成町)
- 白狐山水子地藏菩薩御詠歌・同四季
- 白狐山観音百八霊場御詠歌・同稻荷讚仰御詠歌
- 玉の櫛御和讃・御詠歌(山形県鶴岡市)

表揮毫 板橋興宗禪師



梅花流詠讚歌は昭和二十五年静岡市洞慶院丹羽仏庵老師が高祖道元禪師七百回大遠忌記念として創設を遂言、昭和二十六年宗門として企画、昭和二十七年四月大本山永平寺にて詠讚歌「梅花流」として奉詠、当山獨住二十四世赤松月船老師は、高祖承陽大師道元禪師御詠歌・追善供養御和讃・御詠歌・追弔御和讃・開山忌御詠歌等 宗門梅花流詠讚歌三十五曲、他に各地寺院の詠讚歌を洞松寺丈室で作詞、老師の遺徳を偲び『作詞の聖地』として記念顕彰するものである。

平成二十三年四月吉日

舟木山 洞松寺 復興維持会

赤松月船老師略年譜

発行日 平成二十四年二月

発行者 〒七四一-二二二

岡山県小田郡矢掛町横谷三七九六番地

洞松寺 鈴木 聖道

電話 (〇八六六) 八二一〇〇八七

FAX (〇八六六) 八二一〇〇八二

編集者 洞松寺復興維持会

事務局 柴口 成浩